

## 「健康のすべて」を担う最先端の健診施設が スマートなメディカル・ナビゲーションを導入

愛知県西部にある津島市は、かつては紡績業を中心として栄えた町の一つとして有名であり、現在は名古屋中心部までのアクセスの良さを活かしてベッドタウンとして活気のある町です。その津島市で1959年に設立された愛知集団検診協会は、企業・学校・住民を対象とした集団（巡回）検診を行ってきました。そして2016年4月に「あいち健康クリニック」へと名称を変更し、同年6月に内科クリニックを併設した新しい健診センターを開院しました。新施設では、より多くの受診者が快適に受診できるようにとの配慮から、InterSystems Cachéを搭載した株式会社ゼクトのMedical Dock Navigator Zを採用しました。

### 主要な利点

スマートフォンで受診者を的確に誘導  
ビーコンで受診者の位置情報を把握  
待ち時間の改善のために移動情報を収集

### スムーズで快適な施設は これからの健診施設に必須の条件

津島市で50年以上にわたり、地域に暮らす人々の健康管理を担ってきた「あいち健康クリニック」は、2016年6月に先進的な健診施設を開院しました。その開院の背景について、理事長を務める加古伸雄院長は、次のように話します。「健康診断に重要なことは精度と快適性だと考えます。当施設に来られる方々には、できるだけリラックスした状態で受診していただきたいと考えています。そのために、医療施設で与えてしまいがちな緊張感を排除して、居心地よく検査を受けていただけるような空間を作りたいと、建築士と相談しながら建物をゼロから設計しました。その結果、デザイン的にも先進で、受診者に細やかな配慮をした、これまでに例を見ない回廊型の健診フロアが誕生したのです」一般的な健康診断の施設では、各検査室の中央にあたる場所に椅子が並べられ、受診者は自分の順番が来るのをその場で待ち続けなければなりません。そのため、常に同じ場所で長時間にわたって待たされている、という印象を与えてしまいます。このことにつき、常務理事の伊藤寿高氏が以下のように解説します。「どんなに個々の検査時間を短縮する努力を

行っても、いつも中央のベンチに戻ってきてしまうと、結果的に『ずっと待っている』と感じてしまいます。待ち時間は受診者の大きなストレスです。当施設では、受診される方々へのサービス向上と、『またここで健診を受けたい』と提供いただけるようにとの思いから、回廊型の設計が考案されたのです」

快適さと待ち時間を感じさせないことを目標に、回廊型を実現し、先進的なデザインの健診施設を設計・開院した「あいち健康クリニック」は、施設の充実に加えて、受診者を案内するナビゲーション方法にも、画期的なシステムを採用しました。

### ホスピタルショーで Medical Dock Navigator Zを 見て決める

「回廊型の施設を受診者に巡回してもらう仕組みを考えたのは、約2年前でした。そのときに課題となっていたのは、死角の多い回廊でスマートに受診者を案内する仕組みの構築でした。医療施設であることを感じさせないように、検査室の案内などもインテリアに溶け込むようにデザインしていたので、その雰囲気をもつナビゲーションの方法

### お客様ご紹介

#### あいち健康クリニック

<http://www.aichi-kenko.clinic/>

#### 所在地

愛知県津島市藤里町2-5

#### 設立

2016年4月1日

#### 診療科

内科、消化器内科、呼吸器内科、小児科、健診センター

#### 主な設備

マルチスライスCT、デジタル乳房X線撮影装置（マンモグラフィ）、経鼻内視鏡（胃カメラ）

#### 職員数

80名

#### 概要

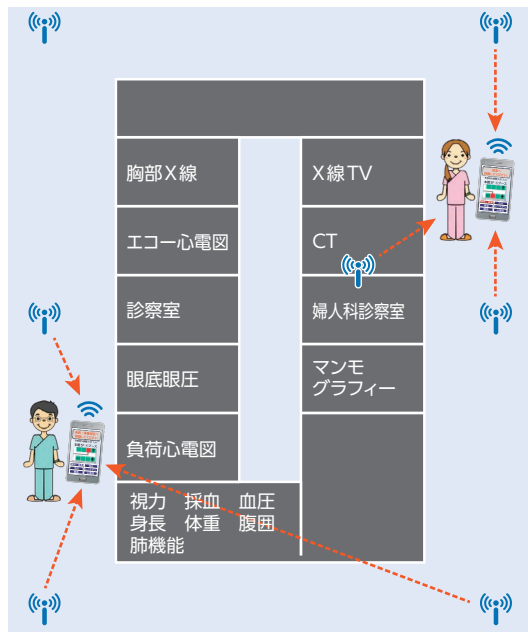
医療法人 あいち健康クリニック（旧 愛知集団検診協会）は、愛知県津島市にある医療機関。2016年6月に完成した新施設には内科クリニックを併設し、健康診断だけでなく、検査から治療までを一貫して提供。



医療法人 あいち健康クリニック  
理事長・院長  
医師  
加古 伸雄 氏

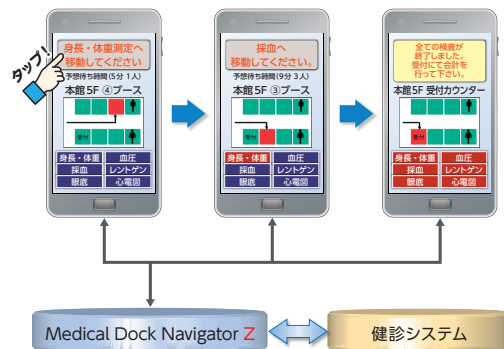


医療法人 あいち健康クリニック  
常務理事  
伊藤 寿高 氏



回廊型健診フロア

ID 発信機 (ビーコン)



がないかと探していたときに、ホスピタルショーでMedical Dock Navigator Zに出会ったのです」と加古院長は振り返ります。医療関係のテクノロジーをはじめ、ITなどにも詳しい加古院長は、やはり学生時代からコンピュータを使っていた経験のある伊藤氏と、定期的にホスピタルショーを訪れて、最新の技術やソリューションを学んでいました。「実は、学生時代の恩師が今のインターシステムズ製品の前身となる技術を使っていたことから、Medical Dock Navigator Zのカタログを見たときに、懐かしさも感じました。30年以上にわたって、医療の現場で活躍し続けているInterSystems Cachéならば、信頼できるとも思いました」と伊藤氏は当時の印象を語ります。

## スマートフォンを活用したスマートな健診案内でサービスの質を向上

「Medical Dock Navigator Zは、高性能マルチモデルデータプラットフォームInterSystems Cachéを利用して株式会社ゼクトが開発した人間ドック向けの健診ナビゲーションシステムです。汎用的なスマートフォンを案内用の端末に用いることで、コストパフォーマンスに優れたナビゲーションシステムを構築できます。スマートフォンを受け取った受診者は、その画面に表示される地図や案内にしたがって検査室を訪れるだけで、必要な検査を確実にスムーズに受けることができます。「システムの導入にあたっては、スマートフォンではなくて、コンシェルジェを配備した案内にかかるコストとも比較しました。その結果、ITを活用した方が長期的に試算すると費用対効果が高いことがわかりました。加えて、限ら

れた数のコンシェルジェによる案内よりも、Medical Dock Navigator Zによるナビゲーションの方が、多くの受診者の状況も的確に把握できる点を評価して、採用を決めました」と加古院長は選定の理由を話します。株式会社ゼクトでは、Medical Dock Navigator Zの運用を「あいち健康クリニック」の施設に最適化するために、施設内に約100基のビーコンを配備し、個々のスマートフォンの位置を正確に把握できるようにしました。「位置情報を正確にトレースできるようになったことで、受診者がいまどの検査室にいるのか、どの検査まで終了しているのか、といった健診の状況や導線を正確に把握できます。スタッフは、スマートフォンを持つ個々の受診者の状況や検査室の混み具合なども、手元のタブレットで閲覧できるので、それらをリアルタイムに確認して、的確に対応できるようになっています」と伊藤氏は運用面の成果を語ります。

## 今後はInterSystems Cachéに蓄積されたデータを活用してサービスの向上を目指す

「開院から約3か月が経過しましたが、ナビゲーションシステムは円滑に活用されています。初めて受診された方が、会社に戻ってから話題にされている、というお話も聞きました。回廊型のレイアウトとナビゲーションシステムの効果で、当院の平均的な健診時間は約60分となっています。しかし、今後はさらに短縮したいと考えています」と加古院長は導入の効果に触れます。Medical Dock Navigator Zによってナビゲーションされたデータは、刻々 InterSystems

Cachéに蓄積されています。その結果、いつどの検査室がどのように混雑したのかも、データを分析することにより、正確に把握できるようになりました。「今後はInterSystems Cachéに蓄積されたデータを解析して、男性と女性の検査にかかる時間差を見極めたり、検査室ごとの混雑の傾向を見て、翌年の運用改善に結びつけていきたいと考えています」と伊藤氏は、検診サービスの改善のためにInterSystems Cachéを活用していく考えも示します。さらに加古院長は、将来に向けた構想も語ります。「将来的には巡回訪問による健診でも、同様のナビゲーションシステムを活用できないか、検討していきます。そして、できるだけ早い時期に、検査結果をリアルタイムで判定して、受診者が手にしているスマートフォンの画面に、該当する生活習慣病の予防知識やクリニックを紹介したり、病気の予防や早期治療につながる案内などを発信して、患者サービスの向上のために、活用していきたいと考えています」

### ■インターシステムズパートナー

株式会社 ゼクト  
〒101-0064  
東京都千代田区猿楽町二丁目2番6号 畑山第1ビル 4階  
<http://www.zect-mc.co.jp/>

### インターシステムズジャパン株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1  
日土地西新宿ビル15F  
TEL:03-5321-6200(代)  
[InterSystems.com/jp/](http://InterSystems.com/jp/)

